



国民の森林・国有林

中部森林管理局

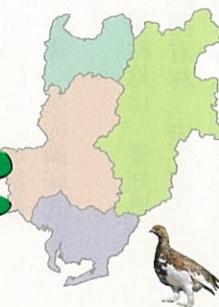
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎(026)236-2531

http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/

広報

中部の森林



瀬戸国有林で「法人の森林」の契約締結

中部森林管理局と日本ハム(株)は、2月25日、瀬戸国有林(定光寺自然休養林)の一部をフィールドとする法人の森林「みんなの森林」の契約調印を執り行いました。(2頁参照)

[写真：契約調印後に両方で強い握手]

| | |
|------|--|
| 主な項目 | <ul style="list-style-type: none"> ○山のフィールドミュージアムを設定 3頁 ○千曲川下流及び宮・庄川計画区等の森林計画を樹立 4頁 ○平成16年度モニター会議を開催 5頁 |
|------|--|

愛知県内の国有林で初めての「法人の森林」契約

「国有林管理課」二月二十五日、瀬戸国有林（定光寺自然休養林）内の「森林交流館」において、中部森林管理局と日本ハム株式会社との間で、分収育林「法人の森林」契約調印式が執り行われました。

この日は、「自然の叡智」をテーマに開催される「愛知万博」（愛・地球博）の開幕一ヶ月前にあたることから、メモリアルな日と位置づけ行いました。

調印式には、当局から関局長、山崎名古屋事務所長、高畑計画部長及び梶愛知森林管理事務所長が、日本ハム株式会社から田代中部圏営業統括部長のほか、来賓として定光寺自然休養林保護管理協議会から土川林野弘済会名古屋支部長、岡本愛知県労働者研修センター支配人にも参加をいただくなど、多数の関係者が出席し、冒頭、関局長、田代中部圏営業統括部長による挨拶の後、契約調印式が行われました。

契約地は、愛知県瀬戸市の瀬戸国有林（定光寺自然休養林）約五畝（ヒノキ他広葉樹を主体

とした人工林（六一年生）及び天然林（七七年生）で、契約期間二十年間となっています。

同社では、以前から自然環境の保全・育成を通じた社会貢献活動に関心を寄せられ、収益の一部を森林の造成や環境保全活動に役立てる「森林を守ろう！運動」を行っております。その一環として法人の森林の愛称を「みんなの森林」とし、兵庫県、茨城県内の国有林においても法人の森林契約を締結し、取組みが進められているところです。

今後は、社会貢献活動の一環として、従業員のボランティア活動による森林保全作業などに取り組むことになっており、「みんなの森林」の活動が、人と自然との共生や地球温暖化防止の取組みへと発展されることが期待されます。

本年度事業の締めくくりを 第三回森林管理署長等会議を開催

二月二十二日～二十三日、森林管理局において平成十六年度



今年度最後の訓示を行う関局長

第三回の署長等会議が開催され、平成十六年度事業の締めくくりと来年度の業務運営、事業担当部長等会議関連の指示等について打ち合わせが行われました。

◆局長訓示

全体会議では、関局長から十六年度の各種事業への尽力に感謝

- ① 十六年度の各種事業への尽力に感謝
- ② 不適正事案発生の防止
- ③ 三位一体改革と治山事業
- ④ 地球温暖化対策
- ⑤ 情報収集と早期の対応
- ⑥ 国有林野事業抜本的改革の推進
- ⑦ 収入確保対策への取組
- ⑧ 労働災害及び交通事故の防止

等について訓示がありました。

◆総務部長訓示

- ① 綱紀の粛正、② 労働安全の確保等（労働安全の確保、メンタルヘルス対策）、③ 労働時間短縮のための取組、④ 研修・広報、⑤ 公務員宿舎・合宿所の取扱、⑥ 給与等の全額口座振込の促進、⑦ 四月期の人事異動、⑧ 臨時雇用、⑨ 経理関係（経費の節減、庁舎・物品等の管理）等について、

等を通じてPR、⑨ 分収林の取組、⑩ 森林空間総合利用の推進、⑪ 測定技術の定着と境界の保全管理の推進、⑫ 景観法の施行、⑬ 開かれた国有林の管理経営等について、

◆計画部長訓示

- ① 林野・土地売り払い、② 森林計画、③ 国民参加の森林づくり、④ 森林環境教育の推進、⑤ NP0等と連携した自然再生、環境教育等新たなニーズに対応、⑥ 技術の開発・普及、⑦ 生物多様性・自然再生への取組、⑧ 局・署等での取組、活動をマスコミ

の訓示がありました。引き続き意見交換があり会議を終了しました。

◆森林整備部長訓示

① 平成十六年度事業、② 平成十七年度事業（収入額の確保、伐採系森林整備事業の積極的な活用、収穫量・生産量の確保、森林整備関連の請負経費及び事業量の確保、林道網の整備）、③ 災害復旧事業の積極的な要求、④ 景観形成事業推進費の対応、⑤ 請負事業体の安全確保等について、



春の山火事予防運動実施中
3月1日～5月31日



調印後握手する真田署長（右）と沢田理事長

「飛騨署」三月五日、高山市奥飛騨温泉郷の新穂高ビクターセンター山楽館において、地元関係者等三十名の立ち会いのもと、飛騨署とNPO法人「山の自然文化研究センター」は「森林学習等の活動に関する協定」を締結しました。

今回は、同センターから奥飛騨温泉郷周辺の多様で自然豊かな国有林をフィールドとして、歩道や簡易ベンチ等の施設の整備や一般市民を対象とした自然環境教育等の活動を実施したいとの要望があり、協定を結ぶことにより、当署としても今後の活動を支援する考

国有林に「山のフィールドミュージアム」を設定

多様な活動を支援する協定締結

えです。

対象となる協定地は、北アルプスのふもと穂高、焼岳、平湯国有林約一四〇㊦を「山のフィールドミュージアム」と名付け、自然と共生しながら、水辺の観察ゾーン等協定地の特色に合わせてゾーン分けをし、自然観察会を散策路の整備等に活用する考えです。

同センターは、北アルプス周辺の豊かな自然や文化を研究し、後世に継承する目的で、飛騨地方に縁の深い砂防研究者、登山指導員、自然公園指導員等が集まり、「自分

たちの知識や経験を生かして、安全で豊かな地域作りと自然環境保全に貢献しよう」と昨年七月に設立され、今年二月にNPO法人に認証されました。

協定の締結後に行ったスノーハイキングに参加した、名古屋や飛騨周辺二十二名の一般公募者は、スキーやスノーシューが初めての方も多く、講習の後に、新雪の鍋平高原で、冬の自然観察を楽しみました。

第五〇回中日造林賞贈呈式

優良造林地を表彰
立松和平氏が記念講演

「名古屋事務所」中部九県の優良造林地などを表彰する第五〇回中日造林賞の贈呈式（主催中日新聞社と中部日本治山治水連盟、後援林野庁、中部森林管理局ほか）が三月七日、中日新聞本社で開催されました。

今回は、中日造林賞が昭和三十一年に創設され五十回目を数えることから、これを記念して講演と森林ボランティア活動に取り組んでいる団体への助成事業も併せて行われました。



林野庁長官賞が関局長から授与される

文化を支える森づくり」と題して講演されました。

贈呈式では、主催者の大島中日新聞社社長から「愛・地球博が始まり、環境への意識が高まる中、環境保全に対する林業の重要性をあらためて紹介していきたい。今後も山を守り、地域社会のけん引者として活躍されることをお祈りします。」と挨拶がありました。

この後、山崎審査委員長（名古屋事務所長）の審査結果報告があり、関森林管理局長から林野庁長官賞を、大島中日新聞社社長から中日賞、奨励賞をそれぞれ受賞者に贈呈しました。

関局長から「中部日本は、有名な林業地や多くの篤林家を輩出してきたところであり、これから良き伝統が息づいている。今回の受賞を契機に、後世に立派な森林を残すため引き続きご尽力をお願いします。」と挨拶があり、続いて、受賞者を代表して、優良造林地の部門で林野庁長官賞に輝いた、三重県紀伊長島町の濱口宗樹さんから「心が癒されるような美しい森をつくらうと励んできた。林業を取り巻く現状は厳しいが、受賞で大きな勇気を与えられた。」と挨拶があ

りました。

受賞者は二部門で八個人、二団体で次の方々です。（敬称略）

【優良造林地の部】

▽林野庁長官賞Ⅱ濱口宗樹（三重県北牟婁郡紀伊長島町）

▽中日賞Ⅱ鳥越政男（石川県羽咋郡志賀町）、玉井義三（福井県遠敷郡上中町）

▽奨励賞Ⅱ川田貞雄（滋賀県伊香郡木之本町）、大和財産区（岐阜県揖斐郡揖斐川町）、水口俊弘・花子（富山県 南砺市）

【造林功労者の部】

▽林野庁長官賞Ⅱ宮本生一（静岡県静岡市）

▽奨励賞Ⅱ真田町外二市共有財産組合（長野県小県郡真田町）、加納進（愛知県東加茂郡足助町）

【森林ボランティア助成表彰】

四団体に対し助成品の目録が大島社長から手渡されました。

▽tenmaどんぐりクラブ（愛知県一宮市）、▽恵那山みどりの会（岐阜県中津川市）、▽寿さと山くらぶ（長野県松本市）、▽森だくさんの会（長野県高遠町）

国土の保全や水源のかん養に重要な森林づくり
千曲川下流及び宮・庄川計画区等の森林計画を樹立



「北信濃くらしと健康を支える森づくり」

【計画課】中部森林管理局は、千曲川下流及び宮・庄川森林計画区に係る「国有林の地域別の森林計画」等と、千曲川上流等八森林計画区に係る「地域管理経営計画」「国有林野施業実施計画」の変更計画を樹立しました。今回の森林計画の樹立等は、昨年八月の飛騨署管内国有林での現地検討会、十二月末の学識経験者等による検討会を経て今般公表されたものです。計画概略については次のおりです。

○機能類型に応じた管理経営の推進

両森林計画区の国有林の多くが、奥地に所在していることから、国土保全や水源のかん養に重要な役割を担っています。千曲川下流森林計画区においては、水源かん養保安林が九十割と高く、地域の重要な水源地になっており、宮・庄川森林計画区においても、平成十一年の九・一五豪雨災害や、九十七割が、水源かん養、土砂の流出防備等の保安林に指定される状況の中で、広域にわたる流域の水

源かん養、山地災害防止等の役割を担っていることから、水土保全林の拡大を図りました。

○間伐の積極的な指定による森林整備等の推進（長伐期化、針広混交林化の推進）

森林の整備に当たっては、重点的に発揮させるべき機能及び併存する他の機能に十分配慮し、森林の整備の目標及び森林の現況に応じて、下層植生の育成や針広混交林化の推進、多様な樹

種で構成され、かつ下層植生が発達した山地災害防止機能や水源かん養機能の高い森林の整備を図るため、積極的に間伐の指定を行いました。

山地災害については、溪間工、山腹工、本数調整伐等の保安林の整備等、現地の実態や緊急性を考慮した治山事業を計画的に実施することとしています。

○生物多様性の確保に向けた取組

千曲川下流森林計画区においては、管内で最も広大な「佐武流山周辺森林生態系保護地域」など十八箇所一万五千畝の保護林や「緑の回廊雨飾・戸隠」を設定し、宮・庄川森林計画区においては、ブナ、ダケカンバ、ハイマツ等原生的な天然林が広範囲に分布している「白山森林生態系保護地域」など、十一箇所併せて一万三千畝の保護林、「白山系緑の回廊」を設定し、野生生物の自由な移動の場として保護するなど、より広範囲で効果的な森林生態系の保護に努めることとしています。

宮・庄川森林計画区内の乗鞍国有林においては、自然環境の保護とガイド同伴による自然観



水源涵養機能を高める森林づくり（白水湖）

察事業が地元村有林を中心に進められており、地元と連携を図りつつ、地域と一体となった適切な保護・管理方策を推進することとしています。

○国民の参加による森林整備の推進

千曲川下流森林計画区においては、平成十六年十月、地元NPO法人「信越トレイルクラブ」と長野・新潟両県にまたがる関田山脈において、「関田トレイル」の協定を締結し、トレッキングコース等の整備を実施することとしています。また、国有林のフィールドを積極的に活用することと、豊かな自然環境の中で森林と人との関わりを見つめ直し、くらしと健康をテーマにし

主要計画量

(単位：ha、m³)

| | 千曲川下流 | | 宮・庄川 | |
|-----------|--------|--------|---------|--------|
| | 本計画 | 前計画 | 本計画 | 前計画 |
| 国有林野面積 | 48,812 | 48,816 | 96,845 | 96,975 |
| 水土保全林 | 23,355 | 19,292 | 67,662 | 67,246 |
| 森林と人との共生林 | 24,994 | 29,060 | 28,849 | 29,398 |
| 伐採量 | 71,000 | 44,000 | 185,000 | 83,400 |
| うち間伐 | 59,581 | 37,923 | 165,502 | 35,202 |

た、「北信濃くらしと健康を支える森林づくり」を推進することとします。宮・庄川森林計画区においては、世界文化遺産である「白川郷合掌造り集落」の維持に資するため、白川村と「茅場造成への協力に関する協定」を締結し茅場の育成地を設定しています。また、「ふれあいの森」「遊々の森」等を利用した森林環境教育の推進、「巨樹・巨木」について、地元自治体等の関係者からなる協議会と協力してその保護活動等を推進することとしています。

「国民の森林」にふさわしく

平成十六年度

モニター会議を開催

「企画調整室」国有林モニター

については、一般から応募いただいた皆様へ依頼し、国有林野事業への理解の促進を図るとともに、意見、要望等を聴取し、「国民の森林」にふさわしい管理経営の推進に資することを目的として、平成十六年度から実施しているものです。

平成十六年度は、全国で三六四名、当管内では二六名の皆様に依頼しており、これまでに国有林に関する各種情報をお届け



モニターとの意見交換の様子

けするとともに、アンケート等により国有林へのご意見、ご要望等を伺ってきたところです。

こうした国有林モニターの取組の一つとして、モニターの皆様にお集まりいただき意見交換を行う場であるモニター会議を、二月二十八日、中部森林管理局において開催しました。

モニター会議には、管内各地から七名のモニターの皆様と、当局からは局長、総務部長、計画部長、関係課（室）長が出席し、当局が行っている事業の説明と意見交換が行われました。

意見交換では、モニターの方々から「モニターを通じて森林が身近に感じられるようになった。」といった感想や、「子供が森林とふれあう機会が必要。それらに関する情報を広く国民に提供してほしい。」「林野庁や森林管理局の取組を理解していない国民が多い。わかりやすく知らせることが必要。」などの意見が出されました。

平成十六年度の国有林モニターの皆様には、意向を伺った上で平成十七年度もモニターをお願いすることとしており、引き続き貴重なご意見を伺っていくことにしています。

第三回

長野林政記者クラブ賞贈呈式

四名の者が表彰される

二月十八日、長野県の林業・木材産業の振興等に貢献された功労者に対する「第三十四回長野林政記者クラブ賞」の贈呈式が長野市内で開催されました。

今年度は、県内の林業関係団体等より推薦された者の中から、四名の方が選ばれました。

贈呈式では、初めに主催者より選考経過の報告がされた後、仲田代表幹事（リンクエイ新聞社）から受賞者に賞状と記念品が贈られました。

引き続き、関中部森林管理局長、鷹野長野県林務部長、大日方県林業団体協議会長からそれぞれ受賞者を讃える祝辞が述べられました。なお、受賞者及び業績等については次のとおりです。

▽山田 仲司氏（前長野県治山

林道協会常務理事）

昭和三十年同協会の前身である長野県林道協会に勤務し、戦後の荒廃林道の復旧、造林推進などため林道網の開設に努める。



受賞者（左から町田氏、伊藤氏、山田氏）

以来、林道事業の予算確保、関係市町村との連絡調整等に配慮し、林道網の開設と推進に努めるなど、半世紀にも及び協会の活動に専念された。

（千曲市稲荷山）

▽伊藤 久明氏（長野県木材協同組合連合会専務理事）

平成五年長野営林局を退職後、同連合会専務理事に就任。県産材の普及と需要拡大に向けた事業を積極的に展開された。

現在、「顔の見える木材での家づくり事業」等の中心メンバー等としても活躍されている。

（長野市上駒沢）

▽町田 光幸氏（北信木材生産センター協同組合専務理事）

平成六年より同組合の専務理事として勤務され、北信地域の素材生産業界の体質強化と経営改善に取組まれる。特に、列状間伐の推進と高性能林業機械の導入等により、作業システムの改善、コストの低減等で成果を挙げられている。

（信州新町）

▽戸矢 正蔵氏（前信州木材資源開発研究会会長）

昭和五十六年より「信州木材資源開発研究会」の会長として、オガ粉の生産、バイオマスエネルギーのペレット使用、炭商品の開発、販売に努力された。

また、ヒノキチオールの製造など、未利用木資源開発の先駆者としても貢献された。

（長野市松代町）

中部森林管理局人事

三月一日付

▽採用 飛騨森林管理署総務課付（高山市高根支所）
所附 泰幸

訂正

第一一号の6ページ、管内国設スキー場一覧の27緑風リゾートひだ流葉の場所は、「飛騨市神岡町伏方」の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。



清流をたたえる巫女淵

「巫女淵」の謂われの一つを紹介すると、昔、源氏に敗れた

この山の北西部、長谷村の浦国有林に石灰岩の間を激しく流れる三峰川によって岩が削られ流水が渦巻く「巫女淵」という大きな淵があります。

赤石山脈は、南北約一〇〇キロ、東西一〇〇〜三〇〇キロに及ぶ日本の屋根であり、富士山に次ぐ高さを持つ北岳(三二九二メートル)を始め三〇〇〇級の山々がそびえています。

◇清流渦巻く淵



平家の落ち武者が浦というところに住み着きました。この時、同行した白拍子(しらびやし)が、その場所は山間で狭い土地しかなく同居していくことはままならなかった

ので、神に仕える白拍子は自分が身をひくことが一番だと決心し三峰川を遡ってこの大きな淵を死ぬ場所と決めて淵に身を投げたといわれています。

後に巫女の残した鈴を祀ってその霊を慰めたと謂われております。両岸の石灰岩は標高差約七〇〇級の断崖を築き、太平洋側から押し寄せるプレート活動や中央構造線などの断層活動により、川の流れを一八〇度以上変えるほどの折りたたみ現象が現れており、この場所は「大典」と呼ばれています。

積雪期が開け、春の芽吹き、夏の涼み、秋の紅葉と変化に富んだ景色を楽しませてくれます。(現在、巫女淵特定地理等保護林に指定。)

◇アクセス方法
中央道伊那ICから国道一五二号経由で、長谷村市野瀬から県道二一二号線に入り、さらに杉島集落より三峰川林道を約五〇分程入り、一〇分程歩いた場所にあります。

平家の落ち武者が浦というところに住み着きました。この時、同行した白拍子(しらびやし)が、その場所は山間で狭い土地しかなく同居していくことはままならなかった

ので、神に仕える白拍子は自分が身をひくことが一番だと決心し三峰川を遡ってこの大きな淵を死ぬ場所と決めて淵に身を投げたといわれています。

後に巫女の残した鈴を祀ってその霊を慰めたと謂われております。両岸の石灰岩は標高差約七〇〇級の断崖を築き、太平洋側から押し寄せるプレート活動や中央構造線などの断層活動により、川の流れを一八〇度以上変えるほどの折りたたみ現象が現れており、この場所は「大典」と呼ばれています。

平成17年度「森林倶楽部」会員募集について

(指導普及課)

- 1 募集人数 180名
- 2 加入費 年会費 5,000円(個人加入)、10,000円(家族加入)
この他にイベントごとに参加費が必要です。
- 3 イベント予定 イベントでは、自然観察、トレッキング、森林浴等を予定しています。

| No. | イベント名 | 実施年月日 | 開催場所 | イベントの内容 | 集合解散場所 | 参加費(見込)円 |
|------------|---------------|----------------|--------------|---|---|----------------------|
| 第1回 | 御柱の森を訪ねて | 6月11日(土) | 長野県下諏訪町 | 木の文化を支える森づくり「御柱の森」のトレッキングと伐採跡地の見学 モミの植樹 | 中部森林管理局、松本合同庁舎、JR金山駅(名古屋市) JR中津川駅、JR下諏訪駅 | 大人 6,500 小人 3,250 |
| 第2回 | 日本百名山「四阿山」を登る | 7月26日(火) | 長野県須坂市真田町 | 日本百名山「四阿山」の登山 | 中部森林管理局、アルピコバス駐車場(松本市) JR上田駅 | 大人 6,500 小人 3,250 |
| 第3回 | 紅葉の野麦峠を歩く | 10月15日(土) | 岐阜県高山市長野県奈川村 | 旧野麦峠街道のトレッキングと、野麦峠の館(資料館)の見学 | 中部森林管理局、松本合同庁舎、JR金山駅(名古屋市) JR中津川駅 | 大人 9,000 小人 4,500 |
| 特別企画(1泊2日) | 森の巨人たちを訪ねる | 9月14日~15日(水・木) | 岐阜県高山市下呂市 | 平湯の大ネズコ、宮の大イチイ、天保の大ヒノキを訪ねる 林業試験地の見学 下呂温泉に宿泊 | 中部森林管理局、アルピコバス駐車場(松本市)、JR松本駅、JR中津川駅(解散のみ) | 大人 16,000 定員25名 |

(注) イベントは、天候等の都合により変更することがあります。参加費の欄の小人は小・中学生です。

- 4 その他 イベント参加の他に、林野庁関係施設の割引利用などのサービスも受けられます。
- 5 募集期間 4月8日(金)まで(消印有効) 官製ハガキかFAXにて申し込み下さい。
参加者多数の場合は抽選となります。
- 6 申し込み先 〒380-8575 長野市栗田715-5
中部森林管理局 指導普及課 緑の普及係 【FAX】026-236-2166
【記入事項】①参加形態(個人、家族別)、②住所、③氏名、④年齢、⑤電話番号、⑥本人を含む申込人数
- 7 問い合わせ先 中部森林管理局 指導普及課 緑の普及係 【電話】026-236-2624